



## 平成30年度 原子燃料サイクル施設周辺の環境放射線等調査結果

調査結果は、これまでと同じ水準であった。  
「原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。」と評価されました。

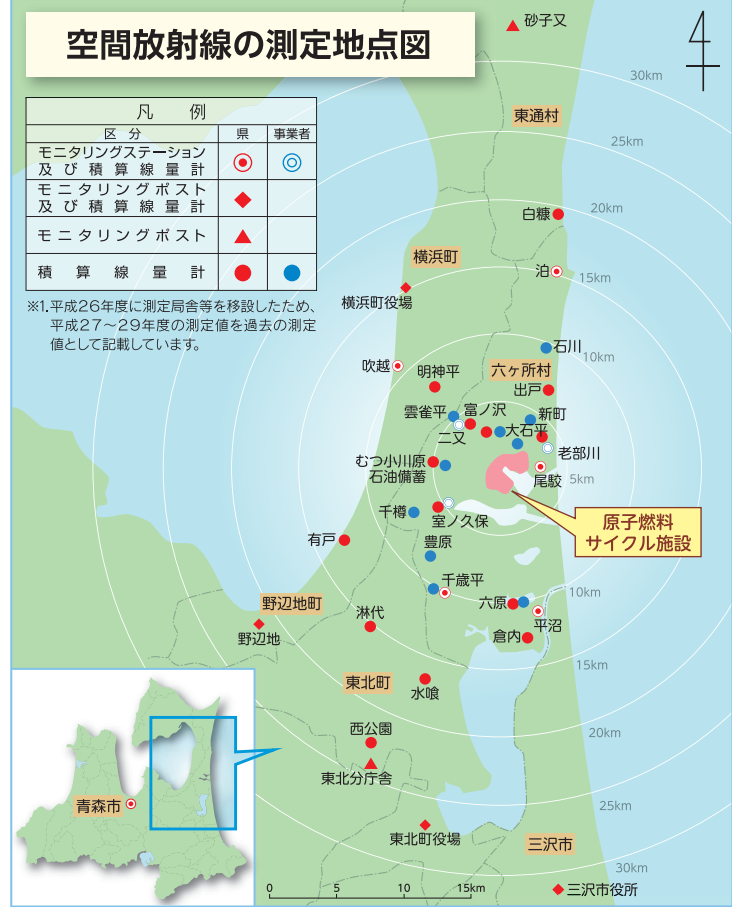
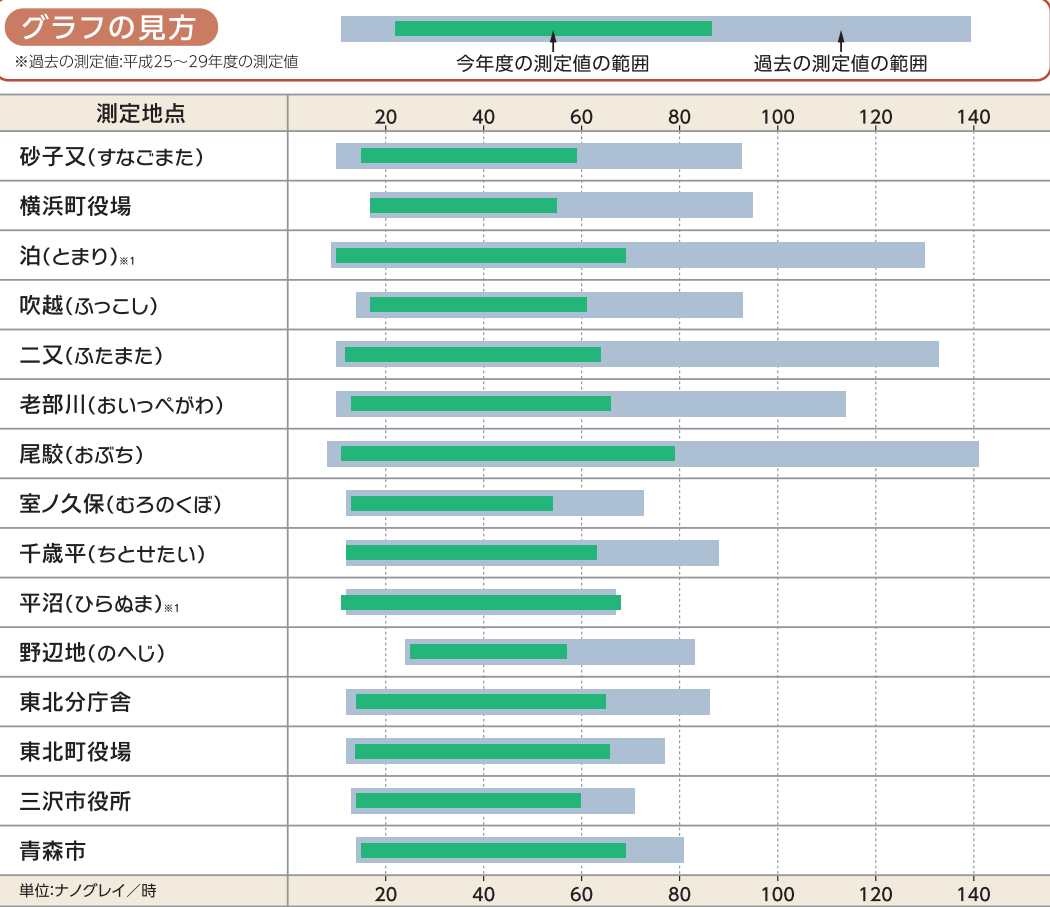


調査のながれ



## 1 空間の放射線 (平成30年4月～平成31年3月)

調査結果 平沼局において、過去の測定値の範囲外の値が測定されましたが、降雪の影響によるもので、「施設からの影響は認められなかった」と評価されました。



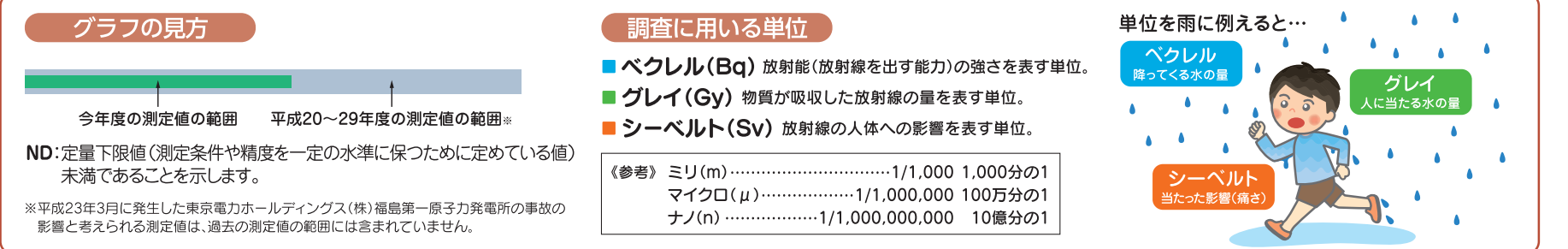
Q 雨や雪が降ると、空間の放射線量が変動するのはなぜ？

A 雨や雪が降ると、空気中に含まれる放射性物質が雨や雪の粒と一緒に地表に落ちるため、測定値が高くなる傾向にあります。一方で、雪が積もると、雪によって大地からの放射線がさえぎられ、値は低くなる傾向にあります。



## 2 環境試料中の放射能 (平成30年4月～平成31年3月)

調査結果 一部の試料において、過去の測定値の範囲外の値が測定されましたが、いずれも一般の環境で認められる程度の値であり、「施設からの影響は認められなかった」と評価されました。



環境試料中の放射能に関する調査結果のうち、主な試料を抜粋してご紹介します。

試料の種類	0.0001	0.001	0.01	0.1	1	10	100	400	単位
陸水 (河川水、湖沼水、水道水、井戸水)	セシウム-137 ND	トリチウム ND	ストロンチウム-90 ND	プルトニウム-238 ND	プルトニウム-239+240 ND	ウラン	フッ素	セシウム-137 ND	セシウム-137 ND
陸土 (河底土、湖底土、表土)	セシウム-137 ND	トリチウム ND	ストロンチウム-90 ND	プルトニウム-238 ND	プルトニウム-239+240 ND	ウラン	フッ素	セシウム-137 ND	セシウム-137 ND
精米	セシウム-137 ND	トリチウム ND	ストロンチウム-90 ND	プルトニウム-238 ND	プルトニウム-239+240 ND	ウラン	フッ素	セシウム-137 ND	セシウム-137 ND

本調査結果は、「モニタリングつうしんあomor」No.113を参考に作成しています。すべての調査結果は青森県のホームページからご確認くださいませ。



環境放射線等調査について、よくある質問にお答えします!!

Q1 原子燃料サイクル施設の周辺地域以外では放射線の調査を行っていないの？

A 当社は、本紙に掲載する施設周辺の放射線に関する調査に加え、その他の青森県内各地域を対象とした「環境放射線等広域調査」を行っています。これは、当社施設の安全性や、放射線が自然界にも存在することなどについて、広く県民の皆さまにご理解いただくことを目的に行っているものです。

調査結果は当社ホームページからご確認くださいませ！

日本原燃 広域調査